

ふみびと

人と人の『絆』

第57号
発行所
文通村事務局
編集 広報部
千葉県成田市

険しくも 笑顔のある道

いよいよ今年ももう12月、最後の月を迎えました。

今年1年、皆さんはどんな「道」を歩んできたでしょうか。

東日本が未曾有の大震災に見舞われ、被災地の人々にとってはもちろん、それ以外の多くの人々にとっても先の見えない不安を抱えて歩んできた1年だったのではないかと思います。しかしそんな中、人と

人の「絆」というものを改めて実感した1年でもあったと思います。

「絆」それは自分の歩く真つ暗で先も周りも見えない道の、ほんの少しばかり先の未来を淡く照らし、隣の人の立ち止まる冷たく凍える道を暖かく灯す光の糸のように思えました。

光の糸だから明るいときには見えません。暖かいつきには感じる事ができません。



それでもそれはいつでも絶えず光を放ち続けていて、今やつと見えることができるときなんだという気がします。

どんな険しい道の途中にも必ず人の温かさを感ずることができると瞬間があります。そう感じさせてくれたのが星野富弘さんという詩人の方の一篇の詩でした。

思い通りにしようという思いが強ければ強いほど、自分の周りのすべてが壁に見えてくる。

すべてを完璧にやろうとすればするほど、自分の不甲斐なさが目立ってくる。それ故に、頑張れば頑張るほど、自分が苦しくなってくる。そんな状況というのは、だれも

がふと感じることのある瞬間ではなからうか。仕事で感じる瞬間、子育てで感じる瞬間、あるいは夫婦間で感じる瞬間。

思い通りの一本道

思い通りにいく人生なら、その

人生は「一本道」。ゴールに誰が一番速く到着できるかというルールなら、「一本道」が一番良い。

しかし、人生はそうではない。速く着くことが目的ではない。悩んだときには、一本道に憧れるときもある。だが、人生にはもつと別の目的があるものだ。心が折れると、そう自分に言い聞かせる。

みんなの声をつくる
投稿テーマ
募集中

投稿のお題、募集中！

村民のみんなに聞いてみたいことを募集しています。こんなことを正直聞いてみたい...このお題にみんなが答えたら...おもしろそう...このテーマにみんなはどう答えるのかな...などなど、お互いを知りあうきっかけとなり、お題が実現したら、お気軽に事務局までお便り下さい。どしどしお送りくださいね！！

編集後記

師走の季節を迎えます。またドタバタし始めるのかと思うと、少し億劫ですが、新しい年を迎えるためと思えば...この1年をふり返りつつ、今年最後のこの月も大切に、走りきりましょう。

お知らせ

年末年始の回送について、別紙でお知らせを同封しました。12月30日の回送はお休みです。年始は1月15日の発送からになります。詳しくは、同封の「お知らせ」をご覧ください。